

新しい時代の高等学校教育の 在り方ワーキンググループ（第3回）

Work in pairs. Let's start!



<実践事例発表>

令和元年(2019年)9月24日（火）

滋賀県立玉川高等学校



"She
is walking
with her
dog."

- ★滋賀県の南部(湖南)に位置する普通科高校です。
- ★今年度、創立37年目を迎えました。
- ★3学年×8学級の生徒が在籍。
- ★部活動もがんばっている生徒が多くいます。
- ★ビブリオバトルなどにも取り組んでいます。
- ★＜45分×7限＞で授業を実施。





昭和58年4月、
古来文人が逍遥した
歴史ある玉川の地に
「白亜の高楼」と校
歌にもうたわれてい
る6階建て校舎の普
通科高等学校として
創立されました。

今年、創立37年
目を迎えていますが
すでに2年前に、卒
業生も1万名を超え
ました。

玉川高校の目指すところは

自律 友愛 進取

教育
目標

人間性豊かで社会に貢献できる
人材の育成を目指し、
明るい学園づくりに努める。



校訓

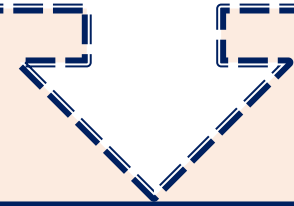
教育
方針

- 1 基礎・基本を重視し、
思考力、判断力、表現力を育み、
個性を生かす教育の充実に努める。
- 2 自ら考え主体的に判断し行動する力を培い、
規律ある学校生活の確立を図る。
- 3 計画的なキャリア教育を行い、自己教育力の
育成を図り、自ら意欲的に学ぶ態度を養う。
- 4 特別活動を推進し、心豊かで
たくましい人間の育成を図る。

<本校生徒の長所>

～生徒の自己分析+教職員の実感～

- まじめ 穏やか
- 心優しい
- 指示にはきっちり従う



でも...

- ☹️ **自分の考えや個性は？**
- ☹️ **思考し判断している？**
- ☹️ **主体性や意欲はある？**
- ☹️ **対話的に協働できる？**
- ☹️ **学びは深まっている？**

文部科学省

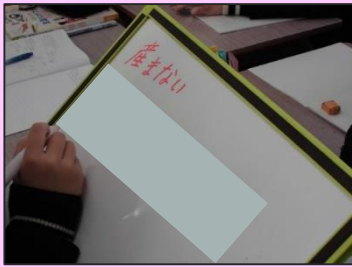
「高校生の基礎学力の定着に向けた 学習改善のための調査研究事業」 3年間の歩み



～ダイジェスト版～



～学力向上の取組みを通じた“玉高・人材育成STORY”～



文部科学省指定（平成28年度～平成30年度） 【高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業】

本校では、平成28年度に、文部科学省から「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の実践研究校として指定を受け、これまでの取組を土台にして、生徒のみなさんの学力向上とよりよい授業づくり・学習活動の工夫に取り組んでいます。
(指定は平成30年度まで)

この事業は、文部科学省が進めている【高大接続改革】の一環として位置づけられているもので、生徒のみなさんがいずれは出て行く社会、その社会の中で充実した豊かな人生を生きる姿を思い描きながら、玉川高等学校での学びをよりよいものにすべく、私たち教職員は日々の学校教育活動に取り組んでいます。

※本校HPから

学力向上

**PDCA &
かリマネ**

**「学びの
基礎診断」**

事業指定に係る実践研究の軸とされたもの

平成28年 事業指定1年目



「まじめ」、「穏やか」、「心優しい」、「ていねいに取り組む」、「指示にはきっちり従う」
・・・まさにそのとおり。長所はいくつもあります！

しかしながら、教職員の中では、長所と言われる本校生徒の傾向について、**<大きく社会が変化する中で、現状を見ていかねば>**という声が出はじめていました。

そんな中、平成28年度に、**文部科学省「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の実践研究校として、指定を受けました。**



**やるからには、
みんながHappyに
なれる取組みに！**

平成28年度
(2016年)

滋賀県立玉川高等学校



<急速・急激に変化する社会> <生涯学び続け、UPDATEできる人材>
知識基盤社会に生きる【Life-long Learner】の育成



学力の向上、思考力・判断力・表現力の育成
豊かな人間性の育成、コミュニケーション能力の育成
社会への貢献、地域・保護者からの信頼

進路指導
キャリア教育

学習指導
学力向上

生徒指導
特別活動

【ここから】

【ここから】

【ここから】



<これまで>

- 将来を見通した、計画的な取組みに向けた指導・支援
- 進路指導課と学年の緊密な連絡・連携
- 進路実現に向けた指導力向上のための教員支援
- 高大連携などをとおした生徒への情報提供の充実

<これまで>

- 生徒に応じた教育課程の編成と実践
- 基礎・基本を重視し、生徒一人ひとりの個性を生かす教育の充実
- 授業を大切にする態度の育成と家庭での学習習慣の定着
- 学習環境の整備
- 本校教育についての外部発信

<これまで>

- いじめのない安心・安全な学校づくり
- 日常での細やかな声かけ
- 活発な部活動をとおしたたくましい心身の育成
- 学園祭やボランティア活動など主体的な生徒会活動
- 独自の学校行事をとおした豊かな心と協働性の育成

教育目標：人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成
を目指し、明るい学園づくりに努める。

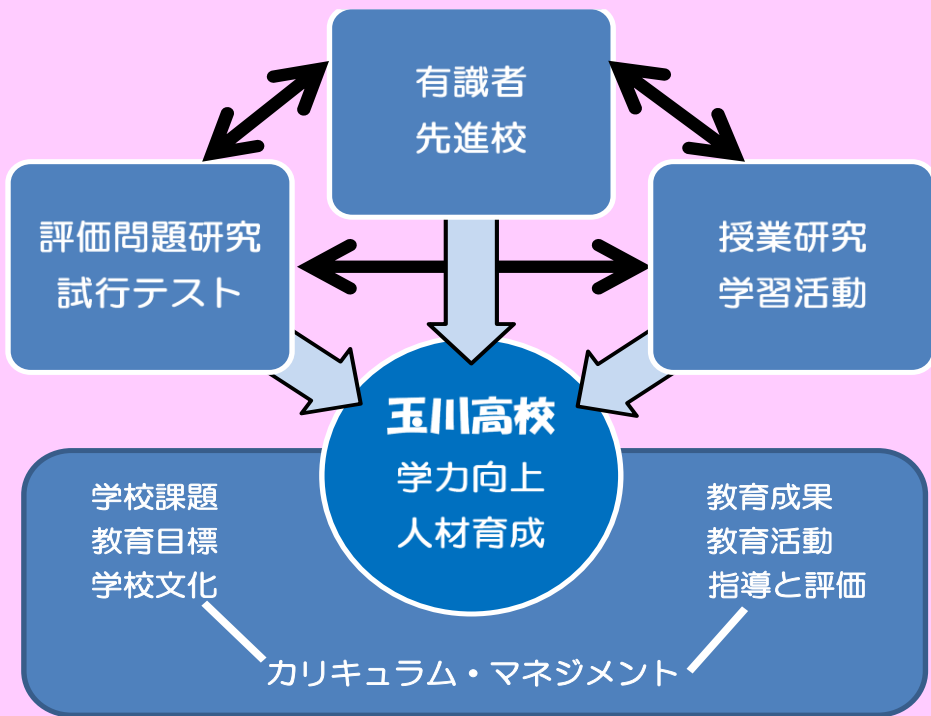
重点目標：知育・徳育・体育の調和のとれた人間教育

○学力の向上と希望する進路の実現 ○規範意識や人権意識の育成 ○部活動の活性化

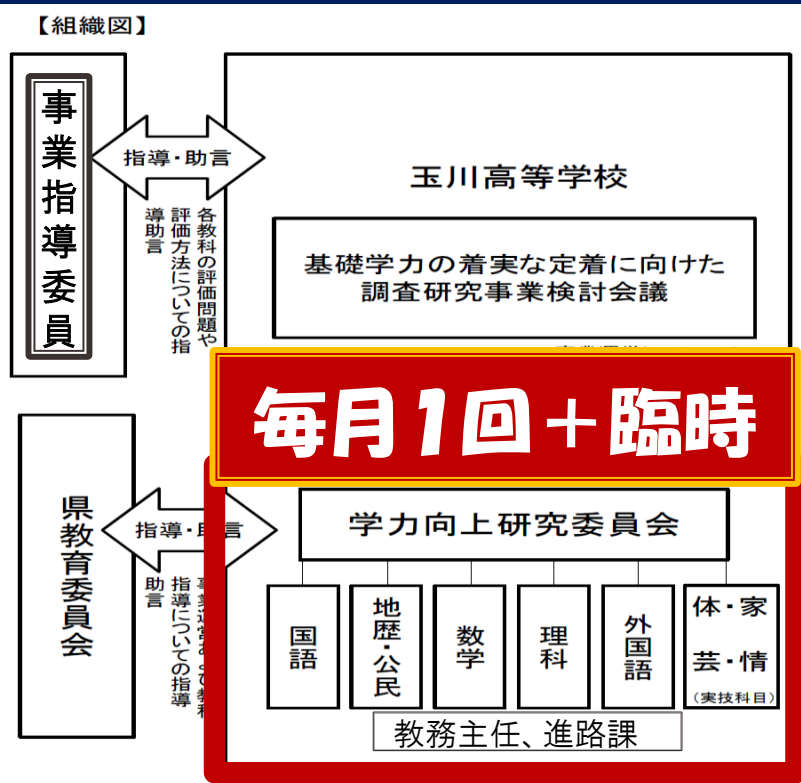
「“大切に”する」指導 / 「協議・協力・協調」



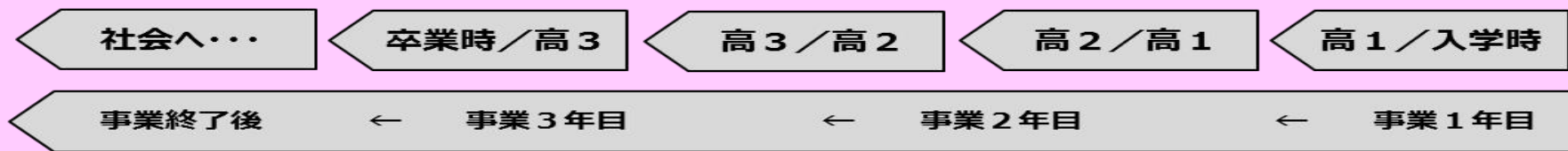
1年目①：「実践者になろう」



1年目②：体制・組織作り



1年目③：「玉高での教育の設計図」作り 1年目としての位置付け



- ◎知識だけでなく、学ぶ方法や姿勢を身につけることができる場所
- ◎答えを引き出すだけでなく、考えを引き出す授業が行われている場所
- ◎「知る・覚える」だけでなく、「理解する・考える」授業を受けられる場所

学校を、
「主体的・対話的で深い学び」
の場に

指定1年目の取組から… DOs & DON'Ts

♪ Dos①:ぶれない土台をもち、それを浸透させる
= **学習指導要領（現行&次期）を熟知**

平成20年
学校教育法 改正
＜第三十条 第2項＞
【学力の重要な3要素】
【生涯にわたり学習する基盤が
培われるよう…】

平成21年3月
高等学校学習指導要領
改訂
【生きる力】【言語活動の充実】

次期学習指導要領

学習指導要領改訂の方向性

に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的
に示す

学習内容の削減は行わない。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められ
る資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高
い理解を回るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



指定1年目の取組から… DOs & DON'Ts

♪ Dos②:「やってみよう」= **外からの風**を追い風にする

例えば… 外部講師の招聘、先進校視察、外部研修への参加
【効果】:「学びが大変革期にあること」を客観的に実感してもらえる

♪ Dos③: **軸となる組織**を立ち上げ、その**役割**を明確に

【効果】: ・学校を変える基盤づくり… **学力向上委員**を学校の核に
→ **若手・中堅の人材育成** & **ベテランの活躍**の場
= “**ジェネレーションの空洞化**”への解決策の1つに!

♪ Dos④: **現状把握**から始め、【**長所、短所**】を洗い出す

例えば… 生徒・教職員の実践に関するアンケート → 教科会議
【効果】: ベクトルを向けるべき方向やこれまでの成果と課題が見えた

指定1年目の取組から… DOs & DON'Ts

♪ Dos⑤:「**だけでなく**」=これまでの実践を**全否定しない**

例えば… 「これまでやってきたことの良さとヌケモレの両方を見ていく」
【効果】：最初の入り口は広く、ハードルは高すぎず…を意識

♪ Dos⑥:【**評価問題（記述式）**】の作成・分析継続

- ★「**思考力・判断力・表現力**」を問う**記述式**問題
- ★毎考査で／10点以上15点未満
- ★分析シートに入力

♪ Dos⑦:「**早いのはごちそう**」=FBと共有は**すぐ**！

♪ Dos⑧:【**授業研究会**】の実施、**ワークシート**でのFB

平成29年 事業指定2年目



事業指定1年目の平成28年度は、「**走りながら考える、考えながら走っている**」
(学力向上研究委員会でも、よく出てきた言葉です)・・・そんな1年でした。
そして、指定2年目へ！



Shift Happens・・・今は大変革の時。社会の要望と期待を受け、高校はどんな場所に？

- ◎知識だけでなく、学ぶ方法や姿勢を身につけることができる場所
- ◎答えを引き出すだけでなく、考えを引き出す授業が行われている場所
- ◎「知る・覚える」だけでなく、「理解する・考える」授業を受けられる場所

生徒の学力向上と自己実現のためには、
「**進路実現**のために必要な学力をつけること」
だけでなく、
「**大学や社会につながる学び**を行うこと」が必要

「主体的・対話的で深い学び」の実現へ

生徒の学力向上と自己実現のためには、

「**進路実現**」のために必要な学力をつけること
 だけでなく、

「**大学や社会につながる学び**」を行うことが必要

平成29年度は

【調査研究の視点①】

学校教育活動全体を通じた
 “大学や社会につながる学び”の実現

【調査研究の視点②】

明確な教育ビジョンに基づいた組織的で
 継続的な取組の推進

1年目のDON'Ts

DON'Ts:「何かしなくては」が
 先行、足元を見直す必要あり。

平成29年度（2017年）

高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業

滋賀県教育委員会（文部科学省指定事業）

協賛校
 玉川
 高等学校

趣旨目標：人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成を目指し、確かな学力づくりを確める。
 重点目標：知育・徳育・体育の調和のとれた人間教育
 ○学力の向上と定着する環境の確保 ○授業計画や人材育成の育成 ○要否の適正化
 【“実現”する“進路”/“進路”-協力-協賛】



成果

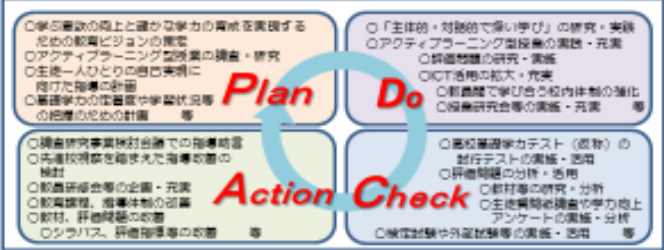
反映

【調査研究の視点①：学校教育活動全体を通じた“大学や社会につながる学び”の実現】

◎知識だけでなく、学ぶ方法や姿勢を身につけることができる場所
 ◎答えを引出すだけでなく、考えを引出す授業が行われている場所
 ◎「知る・覚える」だけでなく、「理解する・考える」授業を受けられる場所

学校を、
 「主体的・対話的で
 深い学び」の場

＜学習指導・学力向上の取組＞



・外部試験および大学等のアドミッションポリシーの分析・活用
 ・生徒への指導・支援および情報提供の充実・共有
 ・高大連携の活用・促進 等

・学校行事や部活動等を通じた
 豊かな心とたくましい心身の
 主体性・協働性の育成
 主体的な生徒会活動の推進
 安心・安全な学習環境づくり 等

＜キャリア教育・進路指導＞

＜人権教育・生活指導＞

【調査研究の視点②：明確な教育ビジョンに基づいた組織的で継続的な取組の推進】

取組 3つのカテゴリー	～2015 PRE-STAGE	2016 STAGE 1	2017 STAGE 2	2018 STAGE 3	2019～ POST-STAGE
取組 学習活動	◎AL型授業の定着・発展	◎ICT活用の充実	◎学習研究研究会の充実・定着	◎生徒間研究発表の分析・活用 等	
取組 評価・ 学習指導	◎基礎学力テストの活用	◎評価制度の研究・実践	◎評価方法の研究	◎シラバスや評価指導の活用 等	
取組 校内体制、 外部との連携等	◎ヒューマン力	◎協力委員会等の活用	◎研究発表の活用	◎外部講師の活用 ◎研究発表の活用 ◎外部との連携 等	

連携・協働

指導・支援

家庭、地域社会、大学等

県教育委員会、外部有識者等

<事業指定2年目 平成29年度の主な取組は・・・>

2年目①：授業研究会、公開授業

研究授業（校内、校外）や、授業参観は年度当初に組み込む



2年目②：高大連携研修、ICT導入

生徒対象の
高大連携研修
（関西大）
を始めました

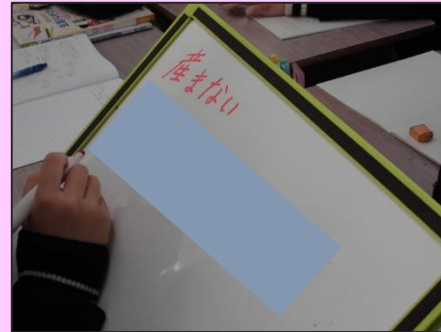
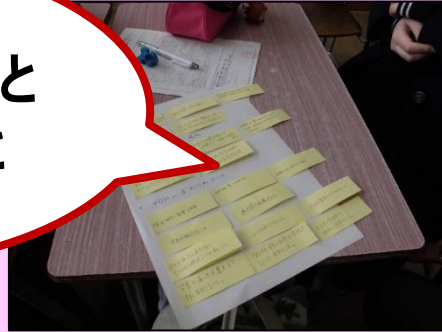


<ICT関係（現時点）>

大型モニター = 3学年 × 3台 + 特別教室 5台
& iPad = 30台ほど

2年目③：授業づくりおよび指導法の研究・実践、 「学びの基礎診断」（試行調査、H28～）の受検

私たちが自身が
「学び続ける」こと
「育ち合う」こと
が大切！

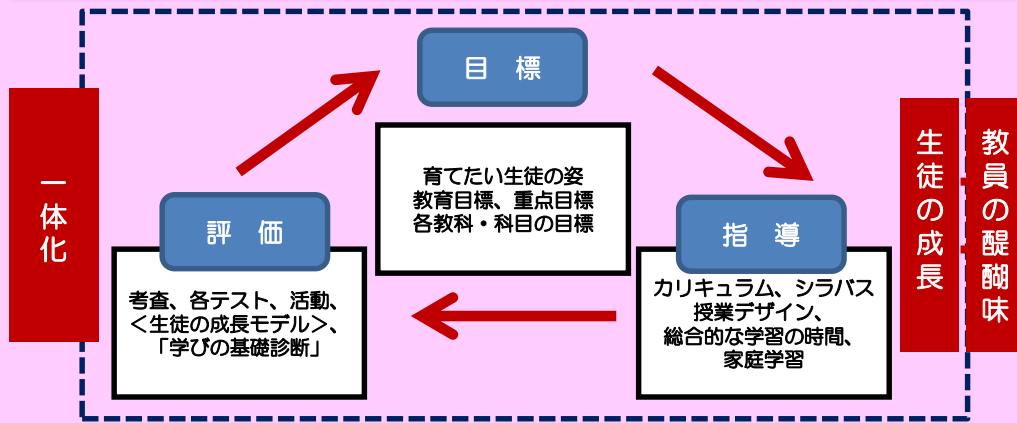


タブレットを
使って
Speaking

Test

★文部科学省での発表(複数回) / ★事業指定校間での交流会
→県内他校ともつながり、共感し、切磋琢磨！

【学力向上の土台①：目標—指導—評価の一体化】



【学力向上の土台②：学びの意義や目的の共有】

大学や社会では、どんな力が求められているかを伝え、経験させねば



★生徒と先生は「玉高での学び」の両輪！
→先生間だけでなく、生徒と先生の間で、<学びの意義や目的>を共有する・・・！

2年目のDOs

♪ Dos⑨:肩の力を抜いて、「教職員自身が楽しい」実践へ！

<主に「C」→「A/P/D」につながるもの>

- 「評価問題」の作成、分析の共有、データ蓄積
- リフレクション（生徒、教員）の実施・活用
- 授業評価（生徒）の実施・活用**
- アンケート調査（生徒、教員）の実施、分析の共有
- 外部試験の実施・活用
- 「**高校生のための学びの基礎診断**」の実施・活用
- 玉川高校<生徒の成長モデル（評価指標）>の作成** など

<主に「P」→「D/C/A」につながるもの>

- 教材研究、授業研究、活動の工夫、データの共有
- 教員研修、授業研究会の実施（校内外公開）
- 校内公開授業月間（3人組、異教科間、強化テーマ）**
- 「全員がアクティブ実践者DAY」の設定
- 先進校視察
- ICTの導入と活用（モニター、テラタッチ、iPad）**
- 玉川高校「授業づくりBOOK」（仮称）の作成準備**
- カリキュラムの見直し・再編**
- 総合的な学習の時間、LHRの見直し・再編<土台づくり>**
- 「**45分×7限**」についての検討
- 「**高大接続研修**」の実施（関西大学での現地研修 = 大学生LAとともに、アクティブラーニングの視点に立った授業やラーニングカフェを体験） など

指定2年目の取組から… DOs & DON'Ts

♪ Dos⑬:【校内授業参観月間】の改良・工夫

…「3人組」(異教科、世代MIX)

…FBシートの改良・工夫

【効果】: ・異教科で組むことで、授業の専門性のみならず、
「生徒の様子」「生徒の反応」「生徒と教員の関係性」
などにフォーカスした授業参観ができる。

・「3人組」内での参観 = フットワーク軽く取り組める

【方法】: ・「3人組」以外の参観も促進するために、<授業予定表>を掲示し、「誰が・いつ・どこで・何を」公開するのかを記入してもらった。

【期間】: 1か月!



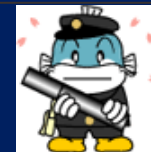
指定2年目の取組から… DOs & DON'Ts

- ♪ Dos^⑭:授業内でペアやグループ等での活動を配することが特別なものではなくなってきた
- …生徒も抵抗なく、活動している様子が見られた

指定2年目の取組から… DOs & DON'Ts

- DON'Ts:「ペアやグループで活動」しさえすれば、「アクティブラーニングの視点に立った学び」??
- … (教職員) 形だけになってる / 進度が遅くなってしまおう
(生徒) また活動 / ペアやグループでする意味は?

平成30年 事業指定3年目



2018年度 高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業

福岡県教育委員会（文部科学省指定事業）

実施単位
玉川
高等学校

事業目的：県立に所属する、人間関係の中で学ぶ学習者を育てる。
事業内容：授業・授業・授業の進捗の可視化・学習者
○学力の向上に資する授業の改善 ○授業改善のための授業改善
○授業改善のための授業改善

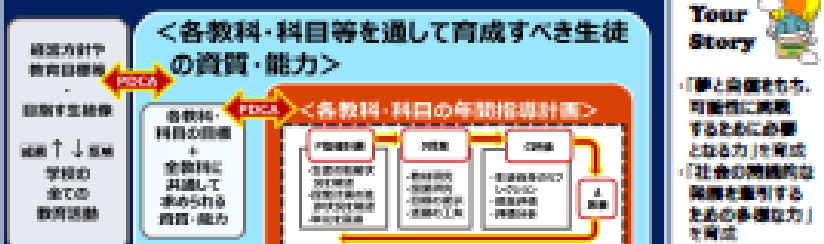


「本校で育てたい生徒像」と学習活動をつなげていくことを、より意識して進めていこう！

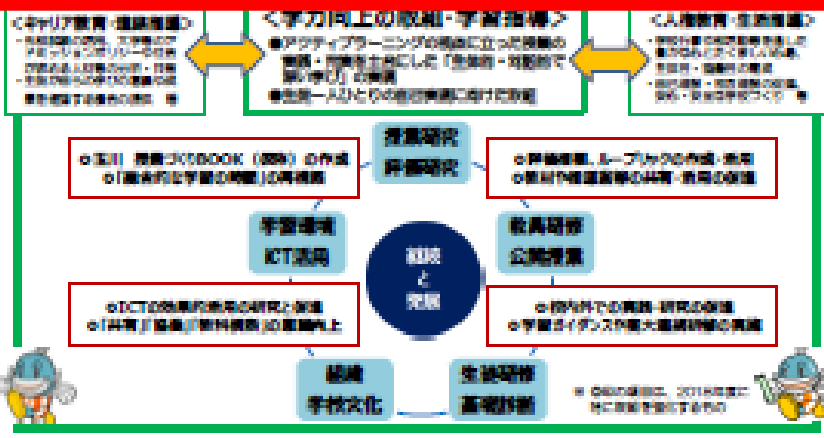
Why?を問い続ける！
…なぜ、学校の学びが大変革期にあるのか？
…なぜ、授業や活動が変わる必要があるのか？

【調査研究の視点①：好成績のPOCAサイクルを確立し、「大学や社会につながる学び」を実現する】

<本校の“学びの設計図”（グランドデザイン）>



【調査研究の視点②：学校の全ての教育活動を関係づけ、人材育成を総合的・社会的に推進する】



連携・協働

連携・交流

家庭、地域社会、大学等

県教育委員会、外部有識者等

指定3年目の取組から… DOs & DON'Ts

- ♪ Dos⑮: Why?を解決しながら、Why?を問い続ける
… 4月キックオフ時のガイダンス（教職員、生徒）
… 時機を捉えた“ネジの巻き直し”（大小いろいろ）

★教職員対象に加えて、生徒対象ガイダンスを実施。

★4月最初の「総合的な学習の時間」を活用。

（1年生 = 学年集会にて研究主任が、2・3年生 = 総学にて担任が実施）

★教職員対象の研修を5月上旬に実施

【ねらい】「ここまでの歩みとその方向性は間違っていない」こと、
「最終年度だからこそその軌道修正や見直しも必要である」ことを全体で確認し、共通理解する。

♪ Dos⑯: 研修後のワークシートの改良・工夫

指定3年目の取組から… DOs & DON'Ts

♪ Dos⑰: つなぐ・つなげる

- …「育てたい生徒像」「生徒に付けたい資質・能力」を中心に据え、**全ての学校教育活動**を関連付け、つなげる
- …同一教科内および異教科間の学びをつなげる
(**教科会議**の効果的活用、**教科横断**の視点)
- …生徒たちの**成長過程**を見取り、**実感と成果**につなげる
- …高校での学びを、**卒業後や社会で生きる力**につなげる

例えば… 学校教育目標の見直し (再設定)

例えば… <**生徒の成長モデル**>を「使いながら、磨いていく」

玉川高等学校

<生徒の成長モデル>

うちでは、資質・能力
を見取る評価指標を
こう呼んでいます！

資料へ

<作成する前に留意したこと>

- 1) **学校教育活動の軸となるものにする**
- 2) **本校の生徒にマッチしたものにする**
- 3) **生徒と共有することを想定する**
- 4) **内容を焦点化・具体化する**

補足①:
 ★【0段階】対象時期：1年次 4月～5月末
 ★【0段階】設定の目的：
 <生徒>入学後、高校生活にスムーズに適応していけるよう、自覚を深め、自覚の取組や学習状況を振り返ります。
 <教員>生徒に、玉川高校生として、学習者としてのreadiness（レディネス、心身の準備）を整えることを促していきます。
 授業や進学、LHRや部活動等で指導・支援し、仲間づくりも始め、生徒たちの“学びの土台”をつくっていきます。

補足②:
 ★【基礎段階】：概ね、1年次終了時（＝1年生の3月）
 【応用段階】：概ね、2年次終了時（＝2年生の3月）
 【発展段階】：概ね、3年次終了時（＝3年生の3月）
 ※教科・科目によっては、【基礎段階】＝1学期終了時、と置き換えて考えることもできます。
 （例えば1年次のみでの配当科目など。）
 ★「共通指標」：そこに示されたこれら6つの力を「準制し」にすると、「玉川の〇年生の生徒像」＝成長モデルが浮かび上がり、「各学年終了時の生徒の姿」が大づかみできるものとなっています。

補足③: ※INPUTおよびOUTPUTの定義は、東上第一巻（京都大学のウェブサイト）から引用しています。
 ★【基礎段階＝INPUT期】、【応用段階＝INTAKE期】、【発展段階＝OUTPUT期】とイメージしました。
 これは、<総合的な学習の時間>における各学年のテーマとつながるものです。
 ※<学習のテーマ> 1年次「自分を見つめ、自分を表現する」/
 2年次「社会を深く知る～自己理解から他者理解へ」 / 3年次「自分の未来を創る」
 ※INPUT（内化）：読む・聞くなどを通して知識を習得したり、活動（外化）後の振り返りやまとめを通して気づきや理解を導いたりすること。
 ↓
 INTAKE（吸収）：内化したものを深め広げる。多様性を認め、独りよがりにならない視野をもつことも含む。
 ↓
 OUTPUT（外化）：書く・話す・発表するなどの活動を通して、知識の理解や領の中で考えたことなど（見聞プロセス）を表現すること。可視化とも呼ばれる。

<玉川高等学校 生徒の成長モデル>

目指す生徒像【将来に展望をもち、人間性豊かで自立した学習者】 ※本校の教育目標

190104現在(H30 Ver.②)

領域	生徒に付けたい力↓	基礎段階 (INPUT期)		応用段階 (INTAKE期)		発展段階 (OUTPUT期)		各教科等でのアプローチ								
		共通指標	教科での具体化	共通指標	教科での具体化	共通指標	教科での具体化	国語	英語	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	総合
知能・技能	基礎教育段階における教科書レベルの内容を概ね理解している	1年次配当の科目における教科書レベルの重要事項を概ね理解している	2年次配当の科目における教科書レベルの重要事項を概ね理解している	3年次配当の科目における教科書レベルの重要事項を概ね理解している												
批判的思考力	①180831 様々な角度から考え、分析し、深める力	示された複数の情報を様々な角度から比較・検討し、課題解決のための手立てを整理・検討することができる。	別紙のとおり	探し出した情報や証拠等を多角的・多面的に分析し、課題解決のための手立てとその結果を推察(予測)することができる。	別紙のとおり	情報や証拠、他者の見解等と自らの知識を組み合わせ、修正を加えながら、論拠性ある論議的の深い解決策を提案することができる。										
公正公平な判断力	：適した情報を正確に理解し、よきよい意思決定ができる力	必要な情報や資料を取り出して分類し、整理することができる。	別紙のとおり	目的に応じて必要な情報や資料を探し出し、それらに基づいて、課題解決の方法を見い出すことができる。	別紙のとおり	探し出した情報や資料に基づいて、自らの意思決定をし、課題発見や課題解決につなげることができる。										
課題解決力	：適した情報や自分の考え・意見等を、明確かつ適切に伝える力	自らの意見や考えを、理由や根拠を明示しながら、論理的に説明することができる。	別紙のとおり	自らの意見や考えを、他者の意見や考えと関連づけたり比較したりしながら、論理的かつ効果的に説明することができる。	別紙のとおり	自らの意見や考えと、他者の意見や考えとを組み合わせ、新たな意見や考えを導き出し、論理的かつ説得力のある説明をすることができる。										
主体性	：自律的・主体的に粘り強く学ぶ態度や姿勢	自らの役割やすべきことを理解し、意欲的・積極的に取り組むことができる。	別紙のとおり	興味・関心があることや日常的なさまざまなテーマ等について、自主的・意欲的に取り組むことができる。	別紙のとおり	見通しをもって粘り強く取り組み、社会的な深いテーマを含む幅広い事柄について、課題意識をもち、意欲的・探究的に取り組むことができる。										
協働する力	：他者と協力し、成果やよい結果を出す力	他者の意見や考えを傾聴し、異なる意見や立場も尊重しながら、話し合う等して協力し、合意形成することができる。	別紙のとおり	課題解決に向け、自ら役割を見いだして関わり、他者と情報や知識を共有しながら、相違点や共通点に基づき、結論や解決策を決定することができる。	別紙のとおり	課題解決に向け、自ら役割を見いだして関わり、他者とアイデアや意見を出し合いながら検討し、新たな課題発見や、成果やよりよい結果につなげることができる。										

★「生徒に付けたい力」：授業等の学習活動を通して育成を図る資質・能力です。各教科での取組が、総合的・相乗効果的に生徒の資質・能力を向上させることを目指しています。
 ★評価指標の活用：生徒は「自分を振り返るツール」として活用します。 / 教職員は「自分の教育活動(教育効果)を振り返るツール」として活用するとともに、定期的に生徒の自己評価を確認します。
 ◎「批判的思考力」critical thinkingとは：物事を多様な観点から多角的・多面的に考察する思考・判断スキルをいう。
 例えば、「比較したり関連付けたりする」/ 状況に適切な理由付けを行う/ 情報・証拠・見解を効果的に分析し、評価して判断するなど。(「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程構成の基本原則」H25.3から)
 「批判」という言葉の持つ意味が、「ものごとをよしあしを考へて、評価・判断すること」と、「否定的な評価・判断をすること」(「ベネッセ新編国語辞典」)であることから、ネガティブなイメージで捉えられることが多いため、注意が必要です。

指定3年目の取組から… D0s & DON'Ts

♪ Dos⑱:授業評価の実施とワークシートの共有
…「**目標 = 成長モデル に準拠した授業評価**」を実施

♪ Dos⑲ : <指定終了後も、玉川高校での“学びの探究”は続く>
有形・無形の財産づくりを意識しています！

□ <玉川高校 授業づくりBOOK (仮称) > …本校のDos&DON'Ts :
・実践事例やノウハウの継承、研修・指導助言のまとめ等

□ **組織、仕組み・仕掛け、学校文化の醸成 :**

- ・人材育成の気運 (生徒、教職員の両方を育てる)
- ・学力向上研究委員会を起点とした体制 ・年2回の校内公開授業月間の実施
- ・研究授業を山場に / 教科会議の充実 / 軸となる教員の育成と広がり
 - …“Road to 研究授業” (体系的な研究授業への取組みを定着させる)
 - …次期学習指導要領の読み解き
- ・アンケート調査や授業評価の改善
- ・教材、指導法の開発や共有

など

『総合的な探究の時間』について ～2019年度以降への展望をもちながら～



平成31年（2019年）2月26日（火）
職員会議資料
<3回の『総探』拡大担当者会議を経て…>



滋賀県立玉川高等学校『総合的な探究の時間』をととした人材育成STORY

2018.12.21 職員会議 → 2019.1.07 運営委員会 → 1.11 職員会議 → 1.23 運営委員会 → 1.30 職員会議 → 2.15 総探担当者拡大会議 → 2.20 運営委員会 → 2.26 職員会議

“玉高の総探”をデザインする：What? When? How? & Who?

～デザインする視点、校内体制の整備も含めて～



1

★学校教育目標＝
将来に展望をもち、人間性豊かで自立した学習者を育てる。

★<成長モデル>＝
「知識・技能」&
「論理的・批判的思考力／公正公平な判断力／言語表現力／主体性／協働する力」

2

総合的な探究の時間をデザインする観点

- 1) 「育てたい生徒像」（付けたい資質・能力）を軸にする。
- 2) 探究プロセス（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現）を繰り返す学習展開にする。
- 3) 「学年毎の山場」を設定するとともに、「3年間の成長STORY」を意識する。
- 4) 自己実現とキャリア形成（主体的な進路選択を含む）につなげる。
- 5) 「生徒一人ひとりの成長」と「玉高生という生徒集団の成長」を実現するに資する課題設定と学習展開を、学校全体で指導・支援する。

	第1学年			第2学年			第3学年		
学年の目標	「自分を見つめ、自分を表現する」 ＝カタリバ・中山道・ビブリオを通じて、集団の中で自分を見つめ、自己表現する			「社会を深く知る～自己理解から他者理解へ」 ＝修学旅行を通じて、日本と台湾の違いや国際課題等について学び、考え、自己表現する			「自分の未来を創る」 ＝3年間のいろいろな場面で培った力を十分に発揮し、豊かな人生につながる進路を主体的に選択・実現する		
学年の山場	ビブリオバトル			修学旅行（台湾）			自己PRなどの自己表現		
各学期のテーマ	1学期 仲間作り（カタリバ）	2学期 他者との協調（中山道）	3学期 自己表現（ビブリオ）	1学期 日本を知る・社会を知る	2学期 台湾を知る・世界を知る	3学期 自己表現（総探発表会等）	1学期 卒業後の自分を思い描く（志望理由の明確化）	2学期 自分の言葉で自分を語る（自己PRの質を上げる）	3学期 自己実現・進路実現



< 3年を経て… >

変革の萌芽♪

≪ 教員: 生徒の様子・活動でGOODな点(授業参観で相互に評価) ≫

例) [言語表現力]

- ◎ 理由や根拠を示し説明している。 ◎ I thinkやFor exampleを使っていて具体的。
- ◎ 論理的に話そうと意識している。 ◎ いろいろな表現を使い、臆せず自己表現している。

例) [協働する力]

- ◎ 相談したり話し合ったりすることを楽しんでいる。安心して発言できている様子だ。
- ◎ 全員が授業に参加している！という空気感。 ◎ 合意形成に懸命に取り組んでいる。

※10～11月校内授業参観月間のワークシート(<生徒の成長モデル>に準拠)から

≪ 生徒: 自分が成長したと思うこと(自己評価) ≫

例) [言語表現力]

- 論理的な構成で書けるようになったと思う。 書くことをあきらめなくなった。
- どうしたら伝わるか工夫して書くようになってきた。 オリジナリティを意識して話す。

例) [協働する力]

- 話し合いながら考えることは楽しいと思う。 人と話せるようになった。
- 相談しながら考えられるので、安心して意見を言うことができるようになった。
- 出来るだけ自分の考えを伝えようとしています。 相談できるのは安心です。

※本校生徒を対象とした授業アンケート(<生徒の成長モデル>に準拠)から

以上で、終わります。
ご静聴ありがとうございました。

